



伝統と匠の技が生み出す 曲木家具の魅力を発信

IDC大塚家具グループ 秋田木工株式会社



A

100年の伝統を守る日本唯一の曲木家具専門ブランド。人々の生活に寄り添い、特別な存在となる家具作りを続ける

伝統の曲木技術を守り続ける

秋田県湯沢市で100年以上の歴史を誇る秋田木工。無垢の木材を高温の蒸気で蒸し、熟練の職人がひとつひとつ手作業で曲げる、「曲木(まげき)」の洋家具を作り続けている。木の特性を熟慮して作り上げられる曲木家具は、木の息づかいが宿る柔らかくも躍動的なフォルムと、100年使える丈夫さが特徴だ。

秋田木工株式会社の前身となる、秋田曲木製作所が創業したのは明治43年(1910年)。当時、急速に西洋化が進んでいた日本では、多くの家具を海外から輸入していた。そのため、西洋家具の技術を国内で育てることが急務とされ、広葉樹の有効活用の点からも、曲木家具の製造が国策として奨励された。大阪、東京に続いて、材料となるブナやナラが豊富な秋田にも曲木家具の製作所が設立され、のちに秋田木工株式会社となる。

この頃、国内各地で多くの曲木家具が作られ、日本中の店舗や家庭に普及していった。しかし、昭和期の成長とともに大量生産が求められるようになると、手間がかかって効率が悪く、職人の育成や技術の習熟に時間を要する曲木の作り手は急激に減少していくこととなる。現在、自社で鉄型の治工具の製造を行い、3次元の曲げ技術を有するのは、秋田木工が国内唯一となっている。

曲木家具の美しいデザインを活かして

曲木技術は木の繊維に逆らわず、その流れに



B

A 高温の蒸気で蒸された木材を、職人が手の感覚だけを頼りに曲げていく

B 創業当初から作り続けているダイニングチェア

基づき、生かす。例えば、ダイニングチェアの背もたれは、1本の長い木から作られる。これは美しさだけでなく、構造・強度面でも意味がある。仮に、形状だけにこだわり、木材から曲面をくり抜いて作ると、木の繊維は寸断されてしまう。これでは曲木ほどの強度を保てず、数年ののちに疲労し、木の節や繊維の切れ目から破断してしまうこともある。木の性質を熟知し、幾多の課題を乗り越えてきた秋田木工だからこそ、伝統工法に自信と誇りを持ち、今なおその可能性を追い求めている。

現在、同社では創業当初から作り続けるロングセラーモデルの他、剣持勇、柳宗理など、日本を代表するデザイナーとコラボレーションした家具を手がけている。今年5月に運行開始したJR 東日本のクルーズトレイン「TRAIN SUITE 四季島」では、車両やインテリアのデザインを担当した奥山清之氏から指名され、ラウンジ、ダイニング、客室で使われる椅子とテーブルを製作した。デザイナーが想う世界観に技術でどう応えるか、家具を使う人を第一に考えながら、伝統を現代へと融合させていく作業は成長と進化の契機でもある。

「木が木で立っていた時よりも美しく」という信念のもと、秋田木工が作り続けてきた曲木家具。伝統の技と職人たちの手作業で作られ続ける家具たちは、歳月を越えて人々の生活に寄り添い、特別な存在であり続ける。



代表取締役

瀬戸 伸正

Shinsei Seto

IDC 大塚家具グループ 秋田木工株式会社

〒012-0862 秋田県湯沢市関口字川前117
TEL.0183-73-0123 FAX.0183-72-2019
E-mail bentwood@yutopia.or.jp
URL <http://www.akitamokko.jp/>

【会社概要】

曲木家具・洋家具類の設計・製造・販売を行う家具メーカー。創業100年を超える歴史を持つ、日本唯一の曲木家具専門ブランド。剣持勇、柳宗理、佐藤オオキなど有名デザイナーとのコラボレーションも行い、数々の曲木家具がグッドデザイン賞を受賞している。2006年、株式会社大塚家具の子会社となる。

創業年:明治43年

